様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ９ 月　 ６ 日現在

機関番号：３６２０１
研究種目：基盤研究(B)（海外学術調査）
研究期間：2015～2017
課題番号：１５Ｈ０５１９２

研究課題名（和文）東アジアにおける宗教的シンクレティズムの社会学的研究－日本・中国・東南アジア－

研究課題名（英文）Sociological Research on Modern Religious Syncretism in East Asia - Japan, China, and Southeast Asia -

研究代表者
橋本　泰子（関泰子）（Hashimoto Seki, Hiroko）

四国学院大学・社会学部・教授（移行）

研究者番号：８０２３６０７５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　12,400,000円

研究成果の概要（和文）：　東アジア諸社会における精霊信仰もしくは宗教的シンクレティズムの存続とその現代的変容に焦点をあて、日本・タイ・ミャンマーの3カ国において、質的調査・量的調査を実施した。その調査研究の結果、以下の3点を問題提起するにいたった。
(1)世界宗教の復興や原理主義の台頭に注目があつまる一方で、「共生の思想」の可能性として東アジアの多神教的土着思想もその役割がある、(2)土着信仰は時代の変化に応じて、実践方法も合理化・複雑化しているが、マスメディアがその普及を促進している面がある、(3)土着信仰の仏教との習合はポスト・モダニズム的に理論化され人々に実践されており、社会的役割や機能を果たしている。

研究成果の概要（英文）：　We conducted qualitative /quantitative surveys in these 3 countries, Japan, Thailand and Myanmar, with a focus on the continuation and the transformation of the spiritual cult or religious syncretism. As a result of the research, we have raised the following three issues. (1) While attention is being paid to the reconstruction of world religion and the rise of fundamentalism, East Asian polytheism indigenous thoughts (spirit cults) and their role should also be evaluated as a possibility of "thought of symbiosis", (2) Indigenous (spirit) cult and its practical methods have been “rationalized” and complicated according to the change of the times, there are aspects where the mass media and the Internet are promoting their dissemination, (3) Learning with the syncretism between indigenous faith and Buddhism , So to speak, post-modernistically theorized, practiced by people, fulfilling social roles and functions.

研究分野：社会学

キーワード：東アジア　タイ　ミャンマー　現代のシンクレティズム　土着信仰　都市の呪術　現代日本の神仏習合

１．研究開始当初の背景

グローバリズムやISIL等による過激な宗教復興運動が注目を浴びる一方で、土着的な精霊信仰研究は衰退する存在としてないがしろにされてきた面がある。しかし、変化が激しい時代であるからこそ、人々の間では、現世での幸福追求につながる土着信仰や呪術はむしろ盛んになっている。従来、小コミュニティにおける実証研究として語られてきた土着信仰は、時に社会全体を巻き込む大きな現象として出現する。本研究は、このような現状認識をもとに、東アジア諸社会における精霊信仰もしくは宗教的シンクレティズムの存続とその現代的変容に焦点をあて、近年の世界宗教による「復興／純化運動」（いわゆる原理主義）の台頭と「大きな伝統」からの「圧力」により「純化」と「生成」の間を揺れ動く民衆の宗教実践を社会学的に考察する必要を感じ、調査研究を行った。

２．研究の目的

調査対象地域は日本、タイ、ミャンマーの3カ国である。日本においては、高野山・熊野文化圏や瀬戸内海沿岸地域を調査対象とし、タイとミャンマーでも複数の地域を調査した。

本研究で目指したのは、前述のように従来、人類学による小集落レベルの断片的なコスモロジーとして語られてきた民間信仰を、都市をも含む基層文化として全体社会の文脈において研究することと、さらにマスメディアやインターネットの普及がこうした土着信仰の社会への浸透を促すことを実証的に調査研究することを目指した。また、ミャンマーに見られるような現代社会における宗教的シンクティズムと実践者たちの対応におけるポストモダン的実態を捉え直すことを目指した。

３．研究の方法

本研究が調査対象にする日本（高野山文化圏、瀬戸内沿岸地域）、タイ（バンコクおよび近郊農村）、ミャンマー東南部沿岸地域におけるインフォーマントへのインタビュー調査（質的調査）を中心としたが、タイ都市調査においては、チュラーロンコーン大学やタマサート大学等の協力のもと、大学生に対する質問表・インターネットを用いたアンケート調査（量的調査）を実施した。

４．研究成果

研究の蓄積がまだ非常に少ない分野であり、本研究は現代アジアにおける都市呪術・土着信仰実践における嚆矢たる視点を提起できたと自負している。明らかになった点は以下のとおりである。

(1) タイ・バンコクの大学生に見られるスピリチュアリズム志向。家庭よりもむしろメディアの影響が大きい。

(2) 同都市中間層に見られるスピリチュアリズム志向については大学生ほどに顕著ではないが、職業により左右される。死と向き合う職業（医師・看護師等）については、他職業より強いスピリチュアリズム志向がうかがわれた。

(3) タイ農村・都市を問わず存在する「霊媒」には世襲制と「啓示」を受けて開業するタイプがあるが、霊媒・クライエント双方にカウンセリング的役割への期待と対応がみられる。

(4) 土着信仰の一部は、現代的に解釈／再編され存続する。またインターネットを通じて拡散され、社会全体を巻き込む大きな社会現象を巻き起こす可能性がある。

(5) 神仏習合がタイ以上にシステマティックに理論的に整理されているミャンマーにおいては、信者の宗教的実践と神への対応が近代的「契約」イメージに近い。また船霊信仰においては、タイ・ミャンマー・ヒンドゥー教徒の漁民間に信仰を通じてのつながりが見られる。他方、ムスリム漁民は、近年、復興主義の影響により船霊信仰を捨てる傾向が見られる。

ここから提起される視点は以下の３点である。(1)「共生の思想」の可能性としての東アジアの多神教的土着思想の存続と変化(2)世界宗教（仏教、イスラーム教、キリスト教）と土着（精霊）信仰の複雑化するシンクレティズムとマス・メディア、インターネットの役割、(3)土着信仰のポスト・モダニズム的実践と社会的役割／機能。以上の視点から、研究代表者・研究分担者が多くの研究論文の発表や研究報告を行った。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

【雑誌論文】

1.関　泰子（2015）「現代ミャンマー社会における精霊信仰と「公式ナッ」をめぐる言説」『四国学院　論集』148、1-33。(査読無)

2.関　泰子　（2017）「現代タイ社会における呪術−都市の「福の神」人形ブームを事例に−」『四国学院　論集』150、1-30。(査読無)

3.関　泰子　（2017）「船霊信仰の比較文化論」『四国学院　論集』151、73-92。(査読無)

4.関　泰子　（2017）「ミャンマーにおける精霊信仰−漁民の船霊信仰を中心に−」『四国学院　論集』153、29-56。(査読無)

5.関　泰子・倉田　健太（2018）「船霊信仰における船玉神社の役割と祭祀−香川県沿岸地域を事例に−」『四国学院　論集』154、1-23。(査読無)

6.野津　幸治（2017）「タイにおけるクマーントーン信仰について−開運のお守りになった胎児の霊−」『四国学院　論集』151、5-26。(査読無)

7.森本　一彦（2017）「前近代における僧侶の移動−金剛峯寺諸院家析負輯を中心として−」『比較家族史研究』31、43-66。（査読無）

8.森本　一彦（2017）「高野山周辺の御田：真国を中心に（和歌山の民俗）」『民俗文化』29、283—304。（査読有）

9.首藤　明和（2015）「チャイニーズネスを構成する言説の資源、地域、歴史の逆説性」『日中社会学研究』23、36-44。（査読有）

10.首藤　明和（2017）「新たな学としての「多文化社会学」に向けて」『多文化社会学研究』3、87-91。（査読無）

11.ポンサピタックサンティ　ピヤ（2016）「現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響」『長崎県立大学　東アジア評論』 8、1-10。（査読無）

12.ポンサピタックサンティ　ピヤ（2017）「タイの若者のスピリチュアリズム傾向についての調査報告」『四国学院　論集』151、27−48。（査読無）

13.ポンサピタックサンティ　ピヤ（2018）「現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響（2）」『京都産業大学論集　社会科学系列』35、3-19。（査読無）

【口頭発表】

1.森本　一彦（2015）「「三軒茶屋」から考える生活態度」（橋本市図書館講座　招待講演）於・橋本市立図書館、2015 年 6 月 25 日。

2.森本　一彦（2015）「高野文化圏の生活文化」（建築学生ワークショップ　in 高野山　招待講演）於・高野山大学、2015 年 7 月 4 日。

3.森本　一彦（2015）「高野山麓の民俗—盆行事を中心として－」（松原市夏季歴史講座　招待講演）於・松原市文化会館、2015 年 7 月 25 日。

4.森本　一彦（2015）「高野文化圏における歴史・民俗」（第 35 回　近畿建築和歌山大会　招待講演）於・高野山大学、2015 年 10 月 3 日。

5.森本　一彦（2015）「前近代における僧侶の移動－金剛峯寺析負輯を中心として－」（比較家族史学会秋季研究大会）、2015 年 11 月 14 日。

【著書】

1.　森本　一彦・平井晶子・小野芳彦（落合恵美子編）（2015）『徳川日本の家族と地域性−歴史人口学との対話−』546頁(該当頁　493-521頁)。

2.　首藤明和（櫻井義秀編）（2017）『現代中国の宗教変動とアジアのキリスト教』北海道大学出版会、490頁(該当頁　323-347頁)。

3．関　泰子（小松和彦編）（2017）『進化する妖怪文化研究』せりか書房、499 頁(該当頁 437-455 頁)　。

〔雑誌論文〕（計 13 件）

〔学会発表〕（計 5 件）

〔図書〕（計 3 件）

：〔その他〕
ホームページ等

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
橋本（関）泰子(HASHIMOTO SEKI HIROKO)
四国学院大学・社会学部・教授
研究者番号：80236075

(2)研究分担者
高井　康弘（TAKAI YASUHIRO）
大谷大学・文学部・教授
研究者番号： 00216607

藤井　勝（FUJII MASARU）
神戸大学・人文学研究科・教授
研究者番号　20165343

森本　一彦（MORIMOTO KAZUHIKO）
高野山大学・文学部・准教授
研究者番号：20536578

野津　幸治（NOZU KOJI）
天理大学・国際学部・教授
研究者番号：40208369

首藤　明和(SHUTO TOSHIKAZU)
長崎大学・多文化社会学部・教授
研究者番号：60346294

ポンサピタックサンティ　ピヤ
（PONGSAPITAKSANTI PIYA)
京都産業大学・現代社会学部・教授
研究者番号：60555481

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：

(4)研究協力者

ウォンブンシン　パチャラーワーライ
（WONGBOONSIN PACHARAWALAI ）
チュラーロンコーン大学人口学研究所・教授）

チムマミー　モンタカーン
(CHIMMAMEE MONTAKAN)
チュラーロンコーン大学・社会調査研究所・研究員）